

## 19 透析時のスタッフ1名あたりの適正患者数を考える

上田透析クリニック 近藤富士美 深宮真 林栄子  
永井とよ子 村井ひとみ 翠川栄治

### 【はじめに】

当院でのスタッフ（透析治療、看護をおこなう看護師と技師）1名あたりの適性患者数を検討した。

### 【患者とスタッフの状況】

当院の透析患者数は昼間が81名、夜間が17名であるが、夜間の患者は一般状態がよくて、ほとんど問題ないので、昼間の患者のみを対象とした。昼間の患者の年齢は23～87歳、平均66歳。透析歴は1月～36年、平均8.3年。原疾患では糖尿病が40%を占めている。

患者の状況では、車椅子使用13名、食事介助3名、重度認知症3名、血圧低下がしばしば見られる25名、血圧低下などの症状の訴えのできない6名、止血の押さえをスタッフが行う37名、心不全7名、フットケアを行っている10名などと、いわゆる手のかかる患者が多く、平均看護必要度<sup>1)</sup>は2.06点であった。

スタッフ数は看護師14名（うち新人3名）と技師2名で、平均透析業務歴は13年。現在の透析時はスタッフ1名に対し患者数は4.5名である。

### 【透析業務状況】

穿刺は患者の入室順に行っているが、開始時は多くの患者が一斉に入室するので、30分以上待たされる人もいる。透析開始に要する時間は10～20分、平均15分、終了時にかかる時間も、スタッフが押さえをする患者が多いので10～25分、

平均15分であり、その時間帯は血圧低下なども多くみられるので一番忙しく、スタッフは走り回っている。透析中はできるだけラウンドして患者の状態や透析の状況をチェックし、会話もたくさんしたいが、雑用も多く、透析困難な患者を除いては、1時間ごとのチェックのみのことが多いのが現状である。

### 【患者アンケート】

スタッフの仕事ぶりや対応についての、患者へのアンケート（表1）では、「スタッフは業務を丁寧かつスムーズに行っているか」については、透析開始時は満足が73%、ほぼ満足が22%、透析終了時では満足73%、ほぼ満足19%、「透析中の具合悪くなったときや警報などに速やかに対応しているか」には、満足が73%、ほぼ満足22%、「業務全般で挨拶、言葉使い、態度、気安く相談できるか」では、満足70%、ほぼ満足24%と、どれにも良い評価をうけ、スタッフの多忙な状況は、多くの患者から理解されていると思われる。具体的な声では、多くの患者から、「いつも親切に声をかけてくれる」などの感謝の言葉をいただいた一方、穿刺や止血が待たされる、説明不足、対応が遅い、忙しいので話かけがしづらいなどの不満もあり、これらは、スタッフ数が足りないだけの問題ではなく、我々自身の能力、姿勢の問題でもあるので、十分反省し、努力しなくてはならないと思っている。

### 【スタッフアンケート】

スタッフへの、透析業務に対するアンケート（表2）では、「透析開始時や終了時の丁寧でス

近藤富士美； 上田透析クリニック  
〒386-0033 上田市 御所 674

表1 患者のアンケート(スタッフの仕事への評価)

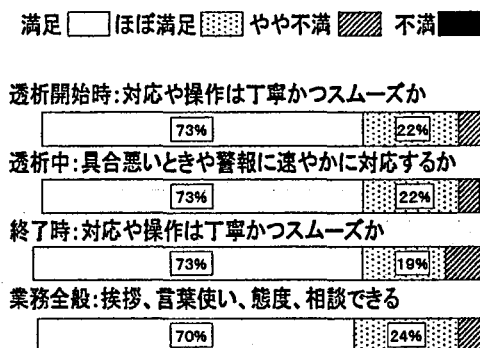
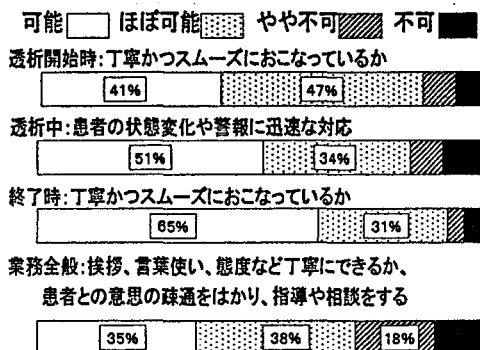


表2 スタッフのアンケート 1(業務について)



スムーズな操作ができているか」については、開始時では可能 41%、ほぼ可能 47%、終了時では可能 65%、ほぼ可能 31%、「透析中の警報や血圧低下などへの迅速な対応」については、可能 51%、ほぼ可能 34%と新人以外はおおむねできているが、「挨拶、言葉使い、態度、患者と意思の疎通をはかる、食事指導、検査の説明、健康相談など」は、可能 35%、ほぼ可能 38%と不十分と思っているスタッフが多くなり、その原因の一部は業務中の時間に余裕がないことであった。

この1年でスタッフが経験した透析業務での事故やヒアリハットは、穿刺ミス、機器の設定や

操作ミス、体重や除水の計算ミス、血圧低下への対応の遅れ、針刺し事故などがみられた。その多くの事例で、多忙が直接の原因であるとは考えられないが、全く関係ないとも言い切れなかった。患者数が多い問題点は、患者を待たせる、時間に追われる、気持ちがあせる、受け持ちの仕事ができない、患者の状態の把握や説明の不足、希望する日の休暇がとれないなどがあげられ、特に休暇がとれないことに大きなストレスを感じるとの意見が多かった。

【考案】

最近、医師や看護師不足が大きな問題になっているが、入院治療での7:1診療報酬制度が導入されてからは、病棟以外の部門へのしわよせが目立っており、透析部門も例外ではない。7:1については、患者の状態(重症度)がそれぞれの病院、病棟で異なっているのに一律はおかしいと、患者の看護必要度による看護師数が検討されている<sup>1)</sup>。日本での看護師1人あたりの透析患者数は2006年で6.95人であるが、年々増加の傾向にある<sup>2)</sup>。最近、透析時の看護師数についても、患者の自立度、看護師の観察、処置の必要度を数値化し、看護必要度として検討され始めている<sup>3)</sup>。しかし、勤務実態とあわない、客観的評価が困難、施設の規模や透析サイクルの違いなど、多くの問題点もあり、また、患者自身のニーズやスタッフが仕事のやりがいを持ち、ストレスを減らすという勤務体制面なども加味する必要があると考えられる。

私達は、患者が安心して透析にきていただくには、患者との意思の疎通こそ一番重要であり、患者のことを知ること、私たちの透析治療に対する考え方やその実際を理解していただくことが透析治療、看護のベースであると考えている。しかし、人対人の関係は難しい問題も多く、時間的余裕がない多忙な治療、看護の場ではなかなか困難

である。

患者、スタッフ共に満足のいく透析治療、看護を行うために、各施設で必用、十分なスタッフ数を検討することは、今後の透析治療を考える上で意味があると考えられる。

#### 【結語】

透析時の必要スタッフ対患者の適正数は、治療看護目標や能力などスタッフ側の要因と患者側のさまざまな要因で決まるが、患者をあまり待たせることなく、穿刺や止血操作を確実におこない、患者の状態のチェックとともに意思の疎通を図り、患者に安心な透析を行うには、時間の余裕も必要であり、当院の規模の外来透析施設では1対4が適正と考えられた。

#### 文献

- 1) 岩沢和子：「看護必要度」の開発とその背景、看護必要度－看護サービスの新たな評価基準（第2版）2007、日本看護協会出版会
- 2) 透析室看護必要度分類表、日本透析医学会統計調査委員会：わが国の慢性透析療法の現状（2006年現在）2007
- 3) 下山節子 他：[特集] 透析医療と看護必要度－その意義と活用の可能性、臨床透析 24:257-359, 2008